

令和元年第5回（9月）出雲崎町議会定例会会議録

議 事 日 程 （第2号）

令和元年9月12日（木曜日）午前9時30分開議

第 1 一般質問

本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

○出席議員（10名）

1番	小黒博泰	2番	中川正弘
3番	中野勝正	4番	高橋速円
5番	諸橋和史	6番	加藤修三
7番	三輪正	8番	安達一雄
9番	高桑佳子	10番	仙海直樹

○欠席議員（なし）

○地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名

町長	小林則幸
副町長	山田正志
教育長	佐藤亨
会計管理者	池田則男
総務課長	河野照郎
町民課長	金泉嘉昭
保健福祉課長	権田孝夫
こども未来室長	矢川浩之
産業観光課長	大矢正人
建設課長	小崎一博
教育課長	矢島則幸
産業観光課参事	内藤良治
総務課参事	金泉修一

○職務のため議場に出席した者の職氏名

事務局長	権頭昇
書記	佐藤理絵

◎開議の宣告

○議長（仙海直樹） ただいまから本日の会議を開きます。

（午前 9時30分）

◎一般質問

○議長（仙海直樹） 日程第1、一般質問を行います。
質問の通告がありますので、順次発言を許します。

◇ 小 黒 博 泰 議員

○議長（仙海直樹） 最初に、1番、小黒博泰議員。

○1番（小黒博泰） おはようございます。今ほど議長のほうからお話ありましたけども、台風15号の影響で千葉とその周辺でまだ停電が続いている家屋が多くあります。幸い出雲崎、秋の収穫時期ということで大きな台風の影響もなく、終わりに近づいてきたかなという感じですけども、夏の猛暑によって白米ですか、最終的にどの程度の米の品質になるかちょっとまだわかりませんが、当町におきましてはそういう大きい被害もないことを喜んでおりますし、今後もそういう被害が来ないことを願ひまして、一般質問に入りたいと思います。

一般質問の内容ですけども、今後のイベント計画と実施について質問させていただきたいと思ひます。今年度は、町の今までの一大イベントでありました汐風食堂、汐風ドリー夢カーニバルもなくなりまして、出雲崎おけさ大会も30回を節目に最後の開催となりました。イベント開催は、この町にとっては観光客を集めるためにも一番いい8月の船まつり等々でありますし、この町をそのイベントを通してPRする方法として一番必要であるし、観光人口の増加にもつながると私は考えております。その中で1番目の質問でありますけれども、町としまして今後のイベント計画の考え等々ありましたら、それを伺いたいと思ひます。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） 小黒議員さんの質問にお答えをしますが、皆さんもご覧になったと思うんですが、去る8月29日、NHKの「クローズアップ現代」、日本の祭りが大ピンチ、次から次へと中止という報道がされました。私もそれを見ておひまして、その費用の関係、マナーの関係あるいは目的を達したというようなことで非常に大きな祭りが次から次へと中止になっているということが報道されました。

当町におきましても今お話をいただきましたようにいろんなイベントを進めてまいりましたが、ある程度目的を達成したと、あるいは一過性のものでもあるというような観点、費用対効果等々考えましたところ、一部イベントを取りやめたという事実もござひます。しかし、それにかわりま

ところの「美食」街めぐり、これを年2回開催をしておったとでございませうが、3回に回数を増やして内容を重視しながら、ご参加いただいた人から非常に好評をいただいておりますというような結果があらわれています。しかし、この問題も私はやっぱり来年度以降は十分改めてこれらの問題点を検証しながらどのような形で継続すべきか再検討を要するかなというふうに思っております。また、出雲崎おけさ全国大会、一昨日の決算審査委員会におけるご意見もいただきましたように伝統あるこの出雲崎おけさを継承すべきというご提言もいただいております。まさにそのとおりでございますが、30回を迎えた中における改めて仕切り直しをしながらこの内容をさらに充実、検討した中における継続も考えていかなきゃならんというふうに思っております。

また、おっしゃるとおり北前船寄港地、船主集う日本遺産ということで出雲崎町も指定をされたわけでございますので、これからはやっぱり具体的にこの事業、いろんなイベントを実施いたすにいたしましても単に華やかにやるんじゃなくていかに小規模でもあろうとも町民の皆さんにご理解をいただきながら、なおかつそれを外部に、外に発信をしながら大勢の皆さんにおいでをいただくと。地域の資源の活用あるいは滞在型の出雲崎あるいは住んでいただける出雲崎、これをアピールしていかなければ私はこのイベントの効果はないというふうに考えています。

○議長（仙海直樹） 1番、小黒議員。

○1番（小黒博泰） 今までの具体的な問題点等を検討するとか、そういう今お話ですけども、私この来年以降、今現在ですけども、産業観光課なり、ほかの課でもそうですけど、そういう今までであった、今年度中止になりましたけども、それにかわるような具体的な今イベント計画の考えがあるのかどうか、実際に。なければいけないんですけど、こういうことをしたいなとか、そういう計画を今現在で来年の予算の中で今考えがあるかないか、その辺ちょっと聞きたいんです。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） この問題につきましても今申し上げましたように一過性のものあるいは目的の達成をしたものについては一応中止する。しかし、次のイベントのあり方については今まち・ひと・しごと創生総合戦略、いろんな町民の皆さんのご意見も伺っております。その中にもご提言もあるわけでございますので、これらを集約しながら内部を挙げてよりの確に、より効果の上がるイベントというものを計画してまいらなきゃならんということで、いわゆる次の年度に向けては申し上げますような町民各位の声も収集しながら、あるいは内部的にも十分過去のイベント等々を検証しながら、さらにレベルアップあるいは効果の上がるイベントというものを考えていかなければならんというふうに考えています。

○議長（仙海直樹） 1番、小黒議員。

○1番（小黒博泰） 現時点ではそういう実質的な計画がないという、私判断しました。

その中でもって、ことし船まつりは行われました。ドリー夢カーニバル縮小した分、船まつりに昨年より250万予算的にはアップして行われたわけですけども、終わってから町民の方に聞くとやっ

ぱりこの夏場で、今回は本マグロの握りですか、行ったというあれですけども、行った方からすると、そんな人は多くなかった。夏場のこの暑いときに解体ショーもいいんだろうけど、どうなのかという話も聞きました。正直、だから今具体的なイベントの計画を検討しながらとなると、私も現在行われている船まつり自体もやっぱり検討の余地が十分あると思うんです。汐風ドリー夢や汐風食堂みたいに要は何回を節目にもう中止という結論に至る可能性もあると思います。その中で船まつりというと来るお客さん正直漁船のパレードですか、あれがやっぱりふだん乗れない漁船に乗れるというのであれを楽しみに来るお客さんもいっぱいいると思うんです。だから、朝早くから整理券を求めて並ぶし。そういう中でその船に乗って、終わればもうさあっと帰る。あれだけいるお客さんがこういうイベントを計画してもさあっと帰るとい、お客さんをとめる要は方法というか、そのイベント内容ですよ。興味を持たれている方は残りますけれども。私は、船まつりにとりあえず対してですけど、私が子供のころのイメージをあれすると、昔は相撲大会があったり、あと商工会も青年部もいっぱいありましたんで、商工会の青年部主催のゲーム的なのだとか、販売もありましたけども、その商工会のあれでもってウナギのつかみ取りみたいなのもあったし、たしか港内でいかだつくっていかだレースみたいな、そういうのも何か過去にはあったと思うんです。そういう中で私今思うのは、行政が決めたイベントをただ行ってお客さんに見てもらうショーだけではお客さんは、よっぽど興味のある方は残りますけども、やっぱり滞在時間が短いと思うんです、目的のものが終われば。であればやっぱり来たお客さんとかが昔のように相撲でも何でもいいんですけど、参加できるようなイベントを企画するのが必要かと思うんですけど、その辺町長はどうお考えですか。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） まず、15日の船まつりの期日、時間の問題ですが、これにつきましても今小黒議員さんのおっしゃるようになってはそういう日の変更はできないかという問題点も生じまして、業者の皆さんともいろいろ協議をさせていただいたんですが、やはりこれは8月15日という伝統ある船まつり、この日は変えることはできないという業者側のご意見が圧倒的でございまして、この日は変えられないということで継続をいたしております。

さらに、今お話のありますように多彩ないろいろな催しというものが必要じゃないかと、全くおっしゃるとおりなんですけど、かつてはそういう娯楽なり、あるいは対外的にもそういうような行事がなかったということでやはり町の行事という、かつての町の市あるいは船まつり等々は町民の皆さんもたくさんおいでになって、いろんな意味で参加をいただいた。そのものが希薄をしつつあることによって、内容の盛り上がりというか、イベントの、だから状況は全部変わってきていると。私は、最後小黒議員さんのご質問にお答えしたと思うんですけど、やっぱりこれからはやはりイベントというのは基本的には町民のきずなを高める、これが必要です。町の行事には家族ぐるみ、町ぐるみで参加をいただいてその祭りを盛り上げる。そこににぎわいを呈する。そのにぎわいの中にお

いて、そのことが外に発信をされて大勢の皆さんからおいでをいただく、このことを私は大事だと思うんです。だから、イベントなり目標そのものについてはやはりまず地元の町民の皆さんからご理解をいただいて一人でも多く参加をいただく、そのことが基本だと私は思うんです。そういう意味で改めて原点に立ち返りながら新たなイベントというものを計画すべきだと私は考えています。

○議長（仙海直樹） 1番、小黒議員。

○1番（小黒博泰） 今町民の参加が必要ということでもってあれですけども、町民の方も自分たちの行ってみたいというイベントがあるから、行くんであって、興味がなければ町民の方参加といってもやっぱりなかなかそのイベントには参加してくれる方が少ないと思います。その中でもって、8月今15日とありますけども、8月15日、隣の刈羽村でも刈羽村ふるさとまつり、三島でも15、16ですか、16、17ですか、近隣でもってやっぱりその時期、お盆の帰省の時期にさまざまなイベントをやっているわけです。そういう中で極端な話、先ほど言いましたけど、出雲崎、8月15日船まつり、朝出雲崎来て外船の無料の船に乗って、終わったら、じゃ刈羽行こうか、そういうお客さんもいるんです、正直。やっぱり刈羽村のふるさとまつりのほうが、予算規模もちよっと私も違う団体でもって毎年1回この出雲崎、柏崎、昔の西山、高柳、そういうイベント情報交換会ということでもって出席させていただいて、ほかの町のイベントの実績とか、そういうのを聞いて、その資料は私どこにあればかちよっとなくて、昨年とか、毎年事業予算とか収支とかも一応聞いているのは聞いているんですけども、その規模が違うんで、何とも言えませんが、刈羽だってやっぱりそういういろいろなショーでもってかなりの豪華なメンバーをそろえて大々的にやっているわけです。だけど、それを目当てに行く人もいるし、刈羽もいろいろ考えて、さっき言いましたようにじゃんけん大会だったりだとかやっぱり来たお客さんがちよっとでも滞在してくれる時間をつくっているわけです、何らかの方法で。過去に出雲崎もたしか船まつりでビンゴ大会だか何かやったときもあったと思うんです。それ朝ビンゴのカードを配って後半の何時にビンゴゲームとかするとすれば、景品とかその辺にもよりますけど、それが一つの楽しみがあって、やっぱりその時間までは何とか時間を過ごそうとかという。刈羽もそうですし、西山の草生水まつりとかもいろいろゲーム大会だとか大ビンゴ大会とかいろいろやっているのが今現状なんです。いかにお客さんを滞在というか、いてもらって地元の商工会ないし青年部等と、団体もそうですけど、やっぱり出店で出店を出しているわけです。町のイベントに協力するがために出店してですけど、普通であればそういう業者さんも出るからには利益がなければやっぱり協力できないわけです、どのイベントに対しても。だから、汐風食堂も実際問題参加している町内の食堂あれしてもやっぱりそれは食材だとかなんとかというやつは町からの助成金はいただけるけれども、要はそのイベントにつき込んだ人件費、その辺まで利益が出るかどうかです。そうすると、やっぱり町の業者も協力はしたいけど、休みのときに町のためにそういうイベントに参加しても要はメリットがないという考えの方も多数おられるんで

す。だから、その中で今町長は町民の参加が必要だという中でもって、2つ目の質問になりますけれども、今後のイベント、町の計画するイベントに町民の意見を取り入れる考えはありますか。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） 私は、今申し上げましたようにこれからのいわゆる町の再生を願ってのプランを今作成中ですが、そういう中における町民の声も聞きます。しかし、基本的に私は町民の皆さんから町が行うイベントについてはやっぱりすごくないども行ってみようか、参加してみようかという気持ちが欲しい。私は、先ほど申し上げましたおけさチャンピオン大会、皆さんことしのおけさチャンピオン大会のあのイベントすばらしいじゃないですか。私は、町民の皆さんがなぜ参加いただけないかな。あんなすばらしい、あんな迫力のある、あれをお金もかかっているわけですが、何とか参加していただいて感激、またあすへのエネルギーを蓄えていただきたいなと思っても全く閑散としています。私は、本当にこれは一旦中止せざるを得ないというものをことしも実感をいたしました。しかも、町民の皆さん、町外の人が多いんです。私は、そういう意味で町が行うイベントについて町民の皆さんがどのようなご理解をいただいているのか、マンネリ化してやめれと言うのか、あるいは新しい思考をこらして我々が参加できるような、そういうものが欲しいと言われるのか。ただ、町がやっているんだから、行かんでもいいんだというようなお気持ちは何とか町も、よそからおいでいただく方々の経済効果も大事なんです、やっぱり町がある程度経費を投入してやる以上は町民の皆さんから参加をしていただいて、そのイベントのよさ、その中におけるお互いの申しあげました町民と町民とのきずな、あるいはそういういろんな意味の目で見て耳で聞き、あるいは話し合っ、かつそれぞれの生活の質を高める、町の活力を高めるというものに、それがイベントです。私は、やっぱり方向としてはそういうような方向の中で改めて今までのイベントのよさはありますが、その原点に立ち返ってもう少し質の高い町民の皆さんからもご理解をいただけるような、行ってみようかというような意欲を湧かせていただくようなイベントに持っていきたいと思っています。

○議長（仙海直樹） 1番、小黒議員。

○1番（小黒博泰） 今町長の答弁だと、町民は町の計画したイベントにとにかく参加してほしいと。私質問したのは、イベントを行うに当たって、今後の計画等々に町民の意義、町民が、今町長言うように参加してくれといっても私が言うように興味がなければ誰も参加しないわけです、幾らいいイベントを行っていても。その中でやっぱり町民は町としてこういうイベントを行ってほしいとか、こういうイベントがあつたらいいなという意見があつたときに、町はそれを取り入れる余地があるのかどうか、その辺を伺っているんです。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） これは、十分取り入れていきます。今現実に皆さんもおわかりでしょう。あのストリートジャズ、これは本当に町民のいわゆる意欲の発露から生まれたんです。非常に正解でし

よう。それに対しては、町は協力をしておる。そういう町民のいわゆる発露の中に生まれたイベントというのは確かに育つんです。おっしゃるとおりなんです。小黑さんのおっしゃるとおりなんです。そういうものも私たちは期待をしたい。行政主導だけではなくてやっぱり町民の声のそういう中における、よし、やってみようかというような、そういう意欲的に取り組んでいただけるそれなりのイベントを行っていく。これは、町は全力を挙げて応援する。ジャズだってそうでしょう。年々盛会になっている。ちょっともう少し町から応援してもらいたいとかなら、やります、頑張ってください、年々やっぱり盛会になってきているんです。これ高橋議員さんが始められたときから始まっているんですが、これを私はすばらしいと思うんです。そういう町民の自らの発露によっていわゆる盛り上がった、立ち上げたイベント、これももう全面的に町が応援します。呼びかけてどうというよりも本当はそういう町民本来のその意欲の中で立ち上がっていただく、それを私は、町としては全面的に応援したい。町民の皆さん、どんなイベントがいいですか、それは多種多様あると思います。それを集約しながらやることも大事ですが、そういう意見の集約をしたそのものの効果というものも必要なんです、やはり基本的にはこれからの方向づけとしては町民の自主的な、そういう一つのイベント等の計画をしていただくと、これ私はすばらしいことだなと思うんですが。

この「美食」街めぐりもそうですよね。そういう参加をしていただく、いわゆる皆さんが非常に意欲的に取り組んでいて、そのことがやっぱり効果につながっていく。そういう私は基本的にはこれからのイベントは、そういうものは小黑議員さんの気持ちと私も同じなんです、やっぱり町民のご意見を伺うことも大事ですが、町民の発露、私はこういうことをやってみたい、そういう自主的な、この町のためにこういうことをやってみたいというような有効的な取り組みがあったときには町は全面的に応援していきたいと。ただし、その全てがそうじゃないです。やっぱり行政として伝統あるいわゆる出雲崎の、そういう継承しなければならぬものは町民の方のご意見を取り入れながら、より参加をいただけるような形の中で進めてまいりたいというふうに考えております。

○議長（仙海直樹） 1番、小黑議員。

○1番（小黑博泰） 今言うように私も、例で言いましたけど、ジャズもそうですけど、それは本当に町民の団体でもってあれして成功がというか、どんどん盛り上がってきたんで、町もそれなりに協力して年々助成金も増えて、それは町民の方はそういう団体をつくってイベントするのは私も本当に実際必要だし、本当にいいと思うんです。それがやっぱり町の活性につながると思うんですけども、ただそれをそうやって集まってできる団体というか、そういうのと思っていてもできない町民の方というかもいるわけです。だから、私町の、例えば船まつりでも何でもいいです。そのイベント、町が企画したイベントの中の一部に1時間だったら1時間でも町民とかが考えたイベントを取り込んでくれるようなことは可能かということですけど、その辺どうですか。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） 有効的な、そういう参加したいという十分意思を取り入れながら行っていき

い。ただし、町もやっぱり一過性といいます、いろいろなイベントの中に例えば小木ノ城太鼓とか、あるいは出雲崎おけさ保存会の皆さんとか、いろいろな皆さんがいろいろなイベントを立ち上げておられるんです。もう一つ一つ見てもすばらしいんです。これ町民の皆さんがやはり組織をつくって、そしてその祭りに参加をして、もう本当にみんな大勢、町民の皆さんから見てもらいたいです、私は、あれだけの努力されているんですから。私は、やっぱりそういうものはもう、だからこれも皆さんも大変だと思うんです。8月15日イベント、お客さんも来る、接待もしなければならない。その中において時間を割いてイベントに参加、そういう出し物をするの大変なんです、皆さんは積極的に参加していただいている。だから、そういうものに対しながら大いに感謝をしながら協力をする。それを町民の皆さんに受けとめてもらいたい、私はそう思うんです。ただ、一部の人が一生懸命やろうと思ったら、やっぱり皆さんそうじゃないですか。催しをやって、そういう時間を割いてばらばらとしたお客さんがいるのか、あるいは皆さんが盛り上げてみんなが集まって、それだけの元気、よし、また頑張ろうと意欲が湧いてくるんじゃないでしょうか。私は、本当にあの船まつりに参加している各種団体のグループには満腔の敬意を表す。それを町民の皆さんから受けとめていただきたいというのが私の気持ちです。

○議長（仙海直樹） 1番、小黒議員。

○1番（小黒博泰） 何回質問しても同じような答弁であれですけども、だから私は、それはお客さんがいっぱい来てもらわなきゃあれだし、町長が言うようにとにかくそのイベントに来て町民の方に参加してもらいたいというのはわかるんですけども、だから参加するにしても興味がなければやっぱり町民の方も参加できないわけじゃないですか。幾らいいイベント、さっき言ったおけさにしたっていいおけさとかでもって、そういういいイベントをしても興味とかそこに行ってみようという意欲がやっぱり町民の方が出ないから、行かないんであって、町民の方がこのイベントがいいイベントだから、じゃみんなで参加しようという参加意欲を持てるようなイベント企画というか、内容に今後私はしてもらいたいという考えなんです。個人でしたやつに町は幾らでも協力する、それは当然だと思います。協力していただければやっぱりイベントを町民があれしても先に進まないわけですし、その第一歩として町の行政が行うようなイベントにそういう町民が企画したようなイベントを30分でも1時間でも取り入れていただきたいと。であれば、また町民の方も自分たちが企画したイベントに参加しようという参加意欲も出てくるだろうし、ほかのそれに興味を持ったお客さんも増えると思うんです。

だから、ほかでもあれですけども、これ新聞でもっていろいろ今出雲崎、天領の里、バイクの乗りがあそこに集まってあそこが中継地点に今なっています。そのほかにまた今自転車ですか、自転車で結構あちこちあれしている部分なのかあれですけども、最近でいくと田上町や、あと湯沢とかでも本当に小さい田上町は180mですか、日本一短いロードレースとか、そういうのをそれなりにその地域でもって、特色じゃないですけど、いろいろ考えて、今は参加人数少なくともそれを興味を

持っている方が年々やっぱりどんどん、どんどん集まってきているわけです。だから、この町もやっぱりそういう船まつりだ、そういうのも伝統的なやつでそれをやめれと言っているわけじゃないんです。その中にまた町の特色あるような、そういうイベントを取り入れて、町民の方もそうだし、そういう町外の方の参加意欲を今後上げていただきたいと、そういう私は要望、要望というか、考えなんです。だから、ほかそうやって自転車やっているとすればあれですし、出雲崎だって別に自転車のヒルクライム、急な坂を上るあれしようと思えば出雲崎も旧小木ノ城正門ちょうどありますし、マラソンでも何でもいいと思うんです。出雲崎だって町内結構マラソン走っている方おられますし、町にないから、寺泊だ、新潟だ、いろいろそういうマラソン大会に参加している方も数多くいると思うんです。そういう中でもって出雲崎でも何か町内のそういうマラソン大会を計画するか、要は町はそういうのを計画したいんだけど、そういう町民の代表者みたいなことに問いかけるじゃないですけど、もしそういうのを計画してくれれば町も幾らでも全面的に協力しますよというのがあれば、また地元のそういう団体も、じゃ頑張ろうかという意欲が出てくると思うんです。

その後の中に、これは私提案ですけども、町長、6月の答弁最後の中でもって、これからも若い人の時代で出雲崎の若い人の意欲をかき立て、その気持ちを受けとめて政策を進めることが大事と答弁しました。そういう中でやっぱり今言ったように出雲崎も若い人がいろいろな意見を持っているわけです、イベントに関しても。保育園だとか中学の吹奏楽、それは本当大事だと思います。それに若い父兄も来るし、来るとか、そういうのも大事なんですけど、本当にこれから出雲崎の町政を担う30代、40代、その辺の若い人たちが計画したようなのをどんどん取り入れてやれば、それ自体も活性につながると思うし、私はこのイベントばっかじゃないんですけども、今大学より新潟県、専門学校が一番いっぱい多くあるわけ。その中でやっぱりこの県内だと新潟ビジネス専門学校だとか国際映像メディア専門学校、そういう中でもってイベント計画だとか、そういうメディア関係の勉強をしている生徒さんも多くいると思うんです。逆にそういう勉強している生徒さんとか学校と町が協力して、さっき言ったようにイベント全体じゃなくて概略、町がこういうイベントを考えたいんだけど、その中の一部をちょっと何かイベント企画というか、計画を立ててくれないかとか、そういう声かけをすれば逆の意味でもってこの出雲崎のまたPRにもなるし、生徒さんの勉強というか、あれにもなると思うんで、ぜひそういうのを私は望みたいんですけども、その辺に関して町長はどうお考えですか。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） 黒議員さんの今までの発言、本当にまさに期待をするところです。また、そういう発露、そういうものが生まれてくるものに対して私たちは大いに期待をしたい。期待をし、なおかつそれを引き出す行政としてのやっぱり努力は、これはやっていかなければならん。要するに言葉でお互いにやりとりじゃなくて、やっぱりそれを本当に具体的に具現化するためには力量とエネルギーと熱意です。そして、地元に対する、いわゆるこの町をいかんせんとするか、そういう意

欲がないとそういうものは生まれてこない。だから、そういうものと合わせた中における私は、これからはやっぱり出雲崎町の現状の中で、今小黒議員さんのおっしゃるようなもう期待をしています。そういう力をどのような形で引き出す。それ我々もいろんな意味でアタックをする。なかなかそれは形としてあらわれてこないというのが現実。私たち力不足もあろうと思うんですが、これはやっぱりこれ議員さんおられます。町民各位もおられます。そういう熱意、力量、この町をいかにせんとするか、そういう気持ちがあるとするならば、行政と皆さんタイアップしながら、常に目的に向かって全力を挙げると言うことが大事だと思うんです。言葉のやりとりじゃないです。これを具体的にどういう形であらわすかと、これ大事なんです。努力をしなきゃならん。私は、今小黒議員さんの発言、さもありがたんだと私は思うんです。そういう意味で単なる議論じゃなくてこれを行動に移す。それをいかに形にあらわすか、これが大事なんです。希望に沿うだけじゃだめなの。それをどういう形であらわすかというプロセス、過程が大事。そういうものに対する今小黒議員さんの全く発言、私は同感です。そうあるべきだと私思う。それをどういう形であらわすか、これが大事です。ひとつ改めて今のこの厳しい状況の中における全力を挙げてそういうものに真摯に、ひたむきに、前向きに取り組むということが私は大事だと思うんです。やっぱりこういう今の一般質問を受けながら、私はそれをしっかりと受けとめてやっていきたいと思います。

○議長（仙海直樹） 1番、小黒議員。

○1番（小黒博泰） 今までしゃべった中で町長ほとんど言ったんで、その中に集約されておると思うんですけど、3番目の現時点、町長が頭の中で描くイベントを行うに当たっての問題点は一番何が問題だとお考えですか。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） イベントは、何のためにやるのかという、まずその問題の原点に立ったときに地域の課題は何であるのか。例えば先ほどちょっとお話ございましたが、良寛、また今新しく指定をされた日本遺産の問題、これは地道なりどもそういうもののやっぱりいろんなイベントが継承されている。良寛ウオーク、皆さんご参加された方もありますが、私も参加はしていませんが、開会式には行って挨拶。物すごく大勢の方集まるんです、町外からも。300人超える人が集まるんです。あるいはこれから日本遺産に指定された北前船、船主が集う町、これについて地道なりど町民の皆さんが努力をいただいて町においでいただいた方々をいわゆる新規遺産を訪ねながら説明会をしたりというような催しもしているんです。だから、大きくクローズアップして単に格好つけるんじゃないで、やっぱり私はこの出雲崎の地域の課題は何であるのか、この地域をいかに再生するのか、そのためには何をすべきかという目標をしっかりと定める。その目標に向かってやっぱり大変なエネルギーと熱意、その行動、それをもって当たらないと議論に終わってしまうんです。本当にここにおける課題をしっかりと私たちは受けとめて、それに対する完璧に答えを求めるとはわかりませんが、やっぱりそういうものに向かって努力するというのが私は大事だと思うんです。あ

えて今のこの町の現状を町民皆さんからしっかりと捉えていただきまして、祭りの目的は今まで申し上げてまいりましたが、まず伝統の継承、その中における経済効果も求められます。最後は、やっぱり地域のきずな、これをしっかりと構築する、これがイベントの最大目標と思うんです。その目標に向かって我々は全力を挙げるという方向で進めてまいりたいと思いますし、議員各位からも率直にまたそういうご提言をいただいたときにはしっかりと受けとめて取り組んでまいりたいと思います。

○議長（仙海直樹） 1番、小黒議員。

○1番（小黒博泰） 町長は、町民のきずな、きずなと言いますけども、参加してきずなが生まれるんであって、私はさっき何度も言いますけれども、やっぱり魅力がないイベントに誰も参加しません、はっきり言って。伝統とか、そういうのも十分わかりますけども、その中でもってこの過去のイベントとかその内容を考えた中でそのイベントをなくすんじゃなくて考え直すためにほかのどこみたいに一回中止してまたやり直すというのは十分必要だと思いますし、あれですけども、今ある今後もやっぱりやろうという中において、その中身をもう一回検証してこれからのイベントを計画するのはもう一番必要だと私は思います。その中で正直私も観光協会の役員していてこういうこと言うのもあれですけども、町のイベントを何とかしてもやっぱり観光協会協賛だとかなんとかとありますけれども、正直そのイベント計画に当たっては、私たちは一切もその計画の会議には参加したこともないですし、中身もわかりません。こういうことをやります、終わってからこうでしたというのが現状です、正直な話。ということは、行政がもう考えた、要は行政が予算どりをして、私が思うのはもうそれは行政のこういう大まかな枠組みの計画というか、企画はあると思います。ただ単にそれを今までの汐風ドリー夢だとかあれもそうですけど、ほとんどがイベント会社にもう丸投げ状態だと思うんです。じゃないとは言います、絶対。ですけど、やっぱりお金でもってイベント会社に丸投げ状態の中であれば、さっき町長は町民のきずなというのであれば、その中の一部を私が言うように時間、1時間だったら1時間を町民の方の計画したイベントを取り入れて町民のそういう方にイベント料というか、計画料じゃないけど、助成金をちょっとでもそういう団体、町民というか、町うちの団体とかに助成したほうが全然これから町、町民が参加型イベントに私はつながると思うんです。

最後にあれですけども、町長は6月にこれから本当に若い人の意欲をかき立ててもう町のために頑張ってもらいたいのが要望だといって答弁しましたよね。であれば、もっと若い人との意見をどんどん取り入れて、それがだめじゃなくて、さっき言ったように努力すれば幾らでも助成すると思うんだらば、本当に私からすると全ての意見を取り入れてどんどん助成ないし協力をしていて、今後のイベント、来年度どういうイベントを町が挙げてくるかわかりませんが、冒頭言ったように町が行うイベントというのはやっぱりその町をPRする一番簡単というか、お客さんも呼ぶ観光人口増の一番簡単な方法だと思うんです。それには興味のあるイベントをやらないとやっ

ぱりやる価値がないのかなと私は思いますんで、その辺十分考慮していただいて、今後のイベント計画ですか、その辺を行っていただきたいと思います。

これで質問を終わります。

◇ 三 輪 正 議員

○議長（仙海直樹） 次に、7番、三輪正議員。

○7番（三輪 正） 私のほうで防災と減災対策の強化についてということでございます。

きょうの朝もニュース見ましたら、千葉県の方ではまだ停電が何十万戸と続いているということで熱中症または階段を、エレベーターないために何十階のところをやるとか、また水がないとか暑さで大変なことになっておるわけですが、私思うに今まで千葉県というのは余り災害がない県だと思ったんです。その前は、よく岡山県はほとんど災害がないから、いい県だから、大いに来てくださいよという話だった。だけど、そうでないんです。だから、今全国どこでももう災害があつて当たり前だというふうな状況になっております。と同時にだんだんこれが強烈になりまして、台風一つとりましても以前ですと大体風速何mくらいで雨量は、雨は何ミリくらいだろうというんでも最近はほとんど過去最高ですというのがもう当たり前にしゅっちゅう出てくるわけです。それで、きのう私国道を走りましてちょうど午後1時ころでしたか、そうしたら突然すごい雨が降りまして、もうワイパー回したってだめだし、相手の車が来るともう水しぶきですか、あれで一瞬見えなくなったんで、ぶつかるんじゃないかと思っておりましたが、ほんの長時間じゃなくて、あれがずっと続いたら、これはえらいことになるなと。割と引き返さなきゃだめかなと思ったんですが、和島へ到着しましたら、和島は大して降っていないんです。そんなことで、ああ、これやっぱりゲリラ豪雨なのかなと思って、それでスマホを見ましたら、雨雲を見ましたらちょうど出雲崎あたりは真っ赤な印がばんとついていたけど、その後が余り続いているんで、あっ、これが通り過ぎればよかったんだなと一安心したわけでございます。そんなことで防災とはやっぱり想像できないようなこともありますので、やはりできるだけ考えられることは事前に対策をとることが必要じゃないかなと。それで、万が一襲ってきた場合、少しでも人的、物的の被害を少なくするということが大事じゃないかなと思うんです。それで、この出雲崎で私の考えるので過去大きな災害という、ずっとしたら、あっ、そういえば五十数年前ですか、昭和36年に8月の集中豪雨2回ありました。そして、秋には第2室戸台風があつたわけですが、もうほとんど忘れておったんですが、よく考えてみると大変なことだなと思ひまして、当時私船橋ですが、もう木がかなり倒れまして、あわや、私の家の裏にも大きな木があつたんですが、もう数mで隣の家にはひっかかるところだったんです。いや、よかったと、万が一あれが倒れたら、場合によっては死人が出たんじゃないかなと思ってその後切りましたけれども、そんなことであと屋根が吹き飛んだ家はかなりありまして、とんでもないところへ屋根が飛んでいましたので、当時私海岸地区のことは余り現場も見えていないんですが、海岸

はもっと風が強かったので、大変だったなと思うわけでございます。

そして、集中豪雨につきましても島崎川も大氾濫いたしまして、その後50年、100年に1回のものでも耐えられるということで今のすばらしい島崎川の改修が終わったわけでございます。それで、私が最近ちょっとある方に聞きまして、当時のことをちょっと聞かせてくださいと、私まだ中学生だったもんですから、ほんの一部しかわからないんで、言ったら、あるため池が氾濫して大変なことになったんだというふうな話は初めて聞いたんです。だから、いや、これはもう一度振り返って五十数年前のこともやはりまた再び起きては困るということでやっぱり対策が必要じゃないかなと、そういうふうに思ったわけでございます。それで、そんなことで事前の準備、そういったことをぜひこれから進めてもらいたいと思います。

それで、これから4点につきまして、具体的にちょっと質問いたしますので、できましたらきょう、もしこれができなかった場合、後日議会、例えば全員協議会等でぜひその質問に対してこういうふうに対策をとりましたよという返答をいただきたいんです。もしなければ、また一般質問なり全協で私再質問したいなと思っておりますので、よろしく願いいたします。

まず、1番目ですが、避難所運営において問題はないかということでございます。私も心配しているのは、役場職員がたしか六十数名、その中でも今かなり町外、遠距離から通勤されている方、職員もだんだん余計になってきておりますので、その辺果たして避難所1カ所ならいいですよ。5カ所、6カ所もう大災害になったと、果たして職員体制というのとれるのかどうか。また、本当に全員が現場に駆けつけられない場合もあるし、中にはどこかへ県外に出張している方もある。場合によっては、また体壊して入院している方もおる。となると、非常に動ける方が少ないと思うんで、その辺の体制は大丈夫なのかということをもっとお聞きしたいと思います。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） 大丈夫です。5カ所ございますが、私たちは災害がレベル4とか5になる前のレベル2ぐらいでもう既に町として事前の対応をします。私は、皆さんに申し上げている。オオカミ少年と言われても私は住民の安全を確保するためにはどんなに力入れても私はやると宣言しています。それだけに町もそういう気象情報をしっかりとキャッチしながらレベル2、レベル3、4に達するような状況のときには常に臨戦態勢でそういう対応をしておりますので、いかに職員が町外におられようと、どうしようと万全の体制で臨みます。

○議長（仙海直樹） 7番、三輪議員。

○7番（三輪 正） 今町長の力強い返答いただきました。非常に心強いと思っています。ことし大水のときでしたか、避難所の開設があったんですが、出雲崎は5カ所たしか開設すると。私も隣の和島さんとかあたりどうかと思って、私和島も第2のふるさとみみたいなもんです。よく知っていますが、1カ所もたしか開かれていなかったと思います。この差は何だろうということで、その辺はやっぱり非常に町は進んで十分配慮しておられるということで非常に安心があったわけでござ

ざいます。そして、皆さんに避難をくださいということなんですが、中には最近高齢者は免許返納しなさいということをもう国を挙げて今やっていますので、じゃ行こうと思ったってあの雨風の中歩いていくとなるとこれ大変なんで、その辺のことが非常に今心配なんです。たしかレベル3になったら高齢者の方は避難せよということで、ですけども、実際それで防災無線聞きますと、最近変わったかもわかりませんが、よく布団とか何か夜具を持って避難してくださいと言うんだけど、これなかなか高齢者の方であの雨風の中で夜具を持ってとかいうのは、これ非常に難しいと思うし、それで実は私この4月に町のほうに資料請求をいたしまして、そして町防災品の備蓄状況について、備蓄場所とか品目、数量、これを見ましたらすごいんです。もう私の想像以上に備蓄品がいっぱいあったんで、非常に安心したんですが、例えば毛布が総数で1,310枚備蓄品としてあるんです。そして、5カ所、海岸公民館、西越改善センター、中央公民館、八手センター、天領、この5つの中には全部毛布は備蓄されております。だから、ぜひそういうとき、それは経費もかかります。一旦使えばまたクリーニングとかわかりますけど、人の命とか、それにはかえられないと思うんで、私はぜひ、いや、それは長期になれば当然何か要りますし、若い方は持ってきてもらいたいけど、特に高齢者とか車でも難しいという方についてはとにかく来てくださいと、あとのものは毛布とか、中には寝具セットもあります。そのほかにもう非常に食料もあるし、すごいんです。これ見ると本当に安心するなと思ったんですけど、でも知っている方ほんの一部で、私もこれ資料請求しなかったらわからないんです。だから、そういったのもっと皆さんにPRして、避難のときに極力もう余り面倒かけないでとにかくここへ来れば安心ですよということをぜひ勧めてもらいたいんです。その辺どうでしょうか。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） 三輪議員さんがおっしゃるようにこれからはやっぱり自助、共助、公助、この3つが災害時における重要な対応なんですけど、公助のいわゆるもう努力の限界は来ておると言われております。要するに自助、共助が基本的にやっていかないとなかなか大変なんです。そういう意味で例えば避難をしてくださいと言っても現に大きな災害が発生した地域のそういう地域レベル、レベル3、4において避難してくれと言っても実際に避難した人は2割か3割と言われておるんです。非常にその辺のジレンマというのがあるんですけど、やはり行政がどんなに努力してもやっぱり自らの身の危険をどう感じ取ってどう行動してもらおうかということをもっと感じていただくことが大事だと思うんです。そういう意味において、この後高桑議員さんのご質問もあるんですけど、やっぱりこれからの災害対応はなぜ3割の人しか避難しないというのは今三輪議員さんおっしゃるようにお年寄りの方やいろんな方は、いや、あんな大勢のとこ行くのはどうだ、何とかここにおれば安全かなというような気持ちの中でそこに残られることが災害につながる、そういう意味で、もう少し、先ほど申し上げました町の避難所も開設するんですけど、身近に速やかに避難をできることをまた原則的にちょっと考えていきたいということをお願いして、この後もまた質問ありますんで、お答え

してまいりたいと思うんですが、そういう意味でやっぱり町としてはもう全力を挙げて今三輪議員さんおっしゃるようなできる限りの対応をしたい。例えば平成19年の中越沖地震あるいは16年も例えば出雲崎町においては屋根が飛んだ、どうだ、シートが欲しい。よそは2枚か3枚という限定。うちの町は、もう必要なだけ持っていってくださいということでもう対応した。これは、非常に皆さんから喜ばれたんです。やっぱり三輪議員さんおっしゃるような平時において備えをしっかりとしておかなければならない。前段のお話にもございましたが、千葉県、もう鉄塔が考えられない、鉄塔2つも倒れる。停電もなおかつ明日にならないと復旧しない、考えられないことです。こんなこと起きないという想定でいろいろ対応したことが結果的には施設のいわゆる被害、あるいは自衛隊も間に合わなかった。これからは、今三輪議員さんが冒頭おっしゃったように、もう今までの災害、こういうことがあったということは通用しません。地球温暖化なりいろいろな意味で台風だっでもうどんな台風が来るかわからない。いろんな集中豪雨も来るかわかんない。だから、本当に常に申している平時において乱忘れず、もうこういう事態が起き得るんだ。もう今までの経験則は通じず災害が起きるんだということを常に私たちは頭に入れておかなきゃだめです。そういう意味で私たちが常に体制としては、さっき申し上げましたように事前の準備から対応をもうしっかりとやってやるということが大事だと思うんです。そういう意味でこれからは避難所の備蓄の問題、管理の問題、私も万全と申し上げましたが、さらに念を入れて非常時に対応するようにしっかりとやっていきたいと思っておりますので、また議員さんの皆さんもいろいろな角度でやっぱり町の対応のあるような皆さんからまたご意見、ご提言をいただいてしっかりと受けとめていきたいと思っております。

○議長（仙海直樹） 7番、三輪議員。

○7番（三輪 正） 避難所がこれからますます重要になるかと思うんで、ただ本当に町のほうでこれだけ力を入れていきますので、特に他の町村に出雲崎はいざとなれば安心して生活できますよということの一つの逆にPRになると思うんで、その辺もやっていただきたいと思っております。

それで、私さっき備蓄品の話で、本当にこれだけ数ページにもわたって物すごくあるんです。だけど、ほとんどこれを知っていないということは非常にもったいないです。全て例えば先ほど今大体ふだん開く避難所が5カ所です。そのうち例えば西越とか八手とか天領の里は、これ指定管理者なんです。となると、指定管理者の方も何が入っているかとかかわからないと。私八手のセンターに前行きまして、また倉庫が増えたのと、あそこ2つ外にあるんです。食べ物か何か入っているじゃねえかねという管理人さんの話だったけど、いや、そんなまさか食べ物がカンカン照りのところにまず入っていないじゃねえかということでその後聞きましたら、いろいろの簡易トイレだとかいうのがわかったんですが、せめてその管理している施設の方にもわかるように、そしてまた地区の自主防災組織の方とか、大体区長さんがその代表を兼務されている方が多いと思うんですが、そういう方もわかっているのは必要なことだと思います。それで、多分今月の下旬でしたか、来月の下旬で区長会議がありますので、その辺をぜひ区長さんに、ただ何かあったら区長さんが、おまえさ

んが悪いんじゃないくて、やっぱり事前にその辺も対応できるようにするのも大事かなと思うんで、よく全て町がやれというのはこれ無理です。だから、まず地域の施設の関係者とか、また自主防災の役員、また区長さんとか、そういう方にもぜひこういうときはこういうふうに協力してくれという事は事前によくお話ししたほうがいいと思います。自主防災については、この後高桑議員のほうで質問されますので、私はあえては余り言いませんけど、ぜひお願いしたいと思います。

私も昨年たまたまある方に勧められまして、防災士の講習受けてみないかということで昨年8月ですか、長岡へ通いまして、それで今町の防災組織に入らせてもらったんですが、非常に余りにも防災というのは範囲が広過ぎて今私ちょっとつかみ切れないという状況ですが、そういう活動されている方もいるわけでございます。

それと避難所へ行きますと、これ上越で私8月に行きましたら、ちょうど公共の宿泊施設なんです。そこにこのくらいの看板にここは海拔何m、そして避難の種類。こことこの避難については、ここへ行ってくださいというふうな話があったんですが、出雲崎は残念ながら、例えば津波のときはどこどこかわからないですよ。だから、私らも一応聞いてはいますが、一般の町民の方は本当にわからないと思うんで、何かやっぱりそういうふうな標示を、この災害のときはこの避難所ですよというのを事前に何か標示したほうがいいんじゃないかと思うんです。すぐ返答できないのは、今後またこういうふうにやりましたという形でお願ひしたいなと思います。

それで、あともう一つ、私ちょっと意外に思ったのがこの備蓄品の資料を見ましたら、ふれあいの里が一切備蓄品がないんです。私あそこが一番多いのかなと思ったんだけど、そこがないんで、これ何か理由があるのかなと思って、その辺ちょっとお聞かせ願ひたいと思います。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） 避難所の指定につきましては、やっぱり安全な場所を最優先をして指定しているわけでございますので、ふれあいの里はこの後三輪さんのため池の問題もございしますが、ため池の関係あるいは土砂災害等々の危険性もありますので、やっぱりそれを5カ所の中に入っておらないということの中におけるそういう対応をする用具は設置しておらないというのが事実ですが、もしかしてこれはやっぱり災害の状況、いろんな状況、例えば風水害とか風とか、そういうところにおける災害等が出た場合においては水でなければふれあいの里もしっかりと避難される場所でございますので、そういう点は柔軟に対応しながら、その中において避難された場合における方々に対する対応はやっぱりご迷惑をかけないようにしっかりと対応すべく、そういうことも範疇に入れていかなきゃならんかと私は思って、今三輪議員さんのご質問の中にありますように、そういうことの中でまたいわゆる災害状況によって、場合によっては避難所に避難をしていただくことになろうかと思いますが、そのときはそのときなりに他の避難所との整合性と、あるいは備蓄等々もしっかりと対応しながら避難をしていただいたときにはご迷惑をかけないように対応してまいりたいというふうに考えています。

○議長（仙海直樹） 7番、三輪議員。

○7番（三輪 正） ちょうど今たまたまふれあいの里がそういう、あの裏には渡内の池というか、私は昔からあれが出雲崎で一番大きい池だという話は聞いていたんですが、そういうせいだということで今お聞きしまして、わかりました。そんなことでちょっと順序を変えまして、ため池ということでもありますけど、今後町はどの程度ため池があるのか。私らも昔は結構あったんですが、今使っていないような池もありますし、それがいざといったときほとんど忘れた池が決壊して大変なことになったと、これやっぱり事前に把握して、これは誰の管理なんだとか大きさはどのくらいで危険性はないんだとかいうようなことを、それと同時にまたため池は場合によっては山火事とかいうときは非常に災害じゃなくてプラスというときもありますので、そういうときは使えるような形で事前にこの池はどなたの所有、管理なんだと、こういうときは使わせてくださいよと、また危険性があるから、こういうのは少しよく見てくださいよということは事前に調べておく。私も意外などこにあるのは聞いたんだけど、現場行ったことないんだけど、あそこにもし池があったら大変なことになるなというの1カ所あるんです。その辺、どの程度調べておられるのか。もしあれだったら今後そういうふうな計画あるのか。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） ため池の安全対策につきましては、本当に重要なことですので、平成30年7月の西日本豪雨災害、これにおきましても農業用のため池等に甚大な被害が発生いたしまして、改めて農業用ため池の管理及び保全に関する法律、これが現在制定されておまして、国、県あるいは他市町でも急速に今対応を進めておるのが現状でございます。そういう中に当町におきましても確認できるため池は現在57カ所でございます。このうち今話題に出ております渡内の池と、そして石畑の池の2カ所を新潟県が選定をする防災重点ため池に今年度新たに登録されました。出雲崎町のため池の対策といたしましては、今年度中には全てのため池を法律に基づき県に登録いたしまして、所有者及び管理者を明確にすることで安全管理を図ってまいりたいというふうに今準備をし、徹底してまいりたいと思っています。来年度は、2カ所のため池につきまして豪雨、耐震診断、氾濫解消等を踏まえたハザードマップを作成をいたしまして、必要に応じて今後の対策を検討する予定でございます。また、今年度から来年度にかけて、新潟県が主体でため池の一斉点検、これが実施される予定になっています。その点検にありまして、全てため池の安全対策を確認するという事になっております。

○議長（仙海直樹） 7番、三輪議員。

○7番（三輪 正） それで、後日その辺のまた報告ぜひ議会のほうにお願いしたいなと思っています。

それと井戸のことなんですけど、これも私以前から本当にもったいないなと思って、今回もやはりかなり皆さん、自衛隊の水を求めて千葉県等並んでおりました。私もちょうど新潟地震のとき新潟

に暮らしておりましたんで、自衛隊のところは何回も何回もバケツ持ったりポリタンクですか、並んだ覚えがあります。あのときは、本当に水というのはこれほど大事なんだなと思って、つくづく思ったわけでございます。それで、当時から見ますと、当時は水洗トイレがありませんから、使用量は少なく、最近トイレも水洗ですし、非常に大変だと思うんで。それで、飲み水はある程度そんな大量には使わないと思うんですが、そのほか生活用水、トイレだとか洗濯とか、そういった場合も万が一水道がなかなか給水できないというふうなとき、じゃ出雲崎は自然に出ている井戸というか、くみ上げ式もありますし、自噴しているところもあります。実際上野山の清水は有名で皆さんくみに行かれておりますけども、そういったものを事前に調べて、これは量的にはこうだと、これは使ってもいいと、これは自噴しているんだと、これはポンプで上げているんだとかいうふうなの、これもやはり事前に調べて、いざというときはどことこのものは使わせてもらいますよというふうな事前に話をしてあればいいんじゃないかなと。私のところもおかげさまで自噴してまして、もう本当かなりの量は出ておりますので、何かのときこれ使ったほうがいいんじゃないかなと以前から思っていますし、車もすぐそばまで行きますので、そういったのを調べて、結構人手も何カ所かありますので、そうなればまたあれなんで、本当に水というのは大変大事なんです。その辺をぜひ。

それと最後にまとめてこの井戸の件と、それとあと総体的なことについて一応町長なり町の方針というか、それでこの質問を終わりたいと思います。お願いいたします。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） 今災害も電気もさることながら水が大変お困りになっているようでございます。これも生活に欠かせない、実質のやっぱり私は大事なことだと思うわけですので、個人の井戸は別といたしましても今三輪議員さんおっしゃるように上野山、あそこに飲料水、そして小木ノ城の上り口に飲料水があるわけです。私は上野山、小木ノ城行きますと、必ずその飲料水今でも飲むんです。前からあるんですから、大丈夫だと思うんですが、こういう自然的に、名水とは言われませんが、もう本当に古い歴史を持った水ですので、これを私は場合によっては町としてやっぱりこの飲料水については果たして確実に飲料水としての適用していいのかどうかという水質検査もする必要があるかなと思っているんです。あわせて今議員さんの井戸の井戸水、これはやっぱり個人の井戸もございまして、私たちのところも自然に揚水している井戸もございまして、果たして飲料水として使うためには、これはもう簡単にそれを使ってよしとは言えないし、皆さんには推奨できない。それにはそれなりの対応をしていかなきゃならないわけでございますので、この辺のことにつきましては災害時における飲料水、場合によっては自然的なそういうものを確実にやっぱり利用してもらおうということも考えたい。個人的なところは、なかなか難しい問題だと思いますので、その辺をまた今後、今三輪議員さんおっしゃるようにそういう個人的な井戸水を公表している市町村もあるようでございますが、若干問題もあるようでございますので、今後その点につきましては十分また公表している市町村とのいわゆるどういう問題点があるのかを把握しながら対応してまいりたいと

いうふうに思っているわけですが、場合によっては個人的にふだんその水を生活用水に使っておられる方々があるとするならば、町としてそれをやってくださいというんじゃなくて個人的に活用していただくという方法もあろうかなと思っていますが、その辺につきましては十分またひとつ、他の市町村でそういう例もございますので、ちょっと問題点もあるようでございますが、十分緩和して対応してもらいたいと思います。

○議長（仙海直樹） 7番、三輪議員。

○7番（三輪 正） それで、時間もちょっと迫っていますので、2番目の質問なんですけども、天領の里へバス路線を延長ならないかということで、これ天領の里ばっかじゃなくて、例えば港もありますし、尼瀬地区もありますので、せっかくもう本当に今ちょうど天領の里を出雲崎柏崎線通っていますけど、私もずっと見ていますけど、残念ながら1人、2人乗っているほうはいいほうで、ほとんどもうとまらないでペっぺと走るといって形でございます。それで、この4月に、これバスと列車の時刻表ですが、これ見ますと、出雲崎車庫から柏崎駅前が1日3便でございます。6時50分発、14時40分、16時35分。ただし、8月2日、3日は休み、土日祝日は休み、8月14日、16日は休み、年末年始は休みということで私観光客なんか考えますと、本当に皆さん勧められないんです、バスがあると。バスあるじゃないけど、申しわけねえけど、1日何便も走っていねえで休みの日がいっぱいあるんだよねということで、残念ながら。それで、よく皆さんタクシーで呼んでくれとかあるんです。中には良寛堂まで歩いてと、いや、おまえさん、気の毒だなと思うんだけど、まさか送り迎え、こっちはやっつけられないから、中にはある職員は余りにも気の毒だから、送ってきたいねということもありました。これも今バス会社もあちこち何か便を減らしたりとか路線を廃止とか非常にそれはわかるんですが、逆にこの辺をやることによって私は間違いなく利用者は増えると思うんで。例えば柏崎線も今は途中から国道を離れまして、プラントのあたり経由で今行っております。だから、実際柏崎駅まで以前から見ると10分くらいおくらしているというふうなことは聞いていますが、何とかこれは難しいのは十分承知なんですけど、あえて町のプラスのために頑張ってもらえないかなと思うんですが、この辺どうでしょう。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） このバス路線の問題ですが、基本的には三輪議員さんのご意見と同じく私ももう熱望し、期待をしますが、現実には非常に厳しいと。現に定期バス路線が全部廃止をされて、さらに見直しをかけたという厳しい意見も出ていることも受けとめております。そういう中において、実際たしかにそういう路線の確保できれば観光をいろいろな面でプラス要因は生まれてくるんですが、現実的にはなかなか難しいと。これは、もうちょっとわかりました、それじゃいわゆる越後交通なりいろいろな路線に働きかけて頑張りますといってもこれは到底、まず逆に言うなら今の路線をさらに廃止するという方向が出ておりますから、大変厳しい。そのために町といたしましても今年度からありましたところの乗り合いタクシーによりまして、デマンドタクシー等々運行して

おりますし、そういう意味で基本的には今のバス路線の基本的ないわゆるJRの出雲崎と海岸線との接点、さらに長岡行きのバス路線等々のこの路線をまずしっかりと現状よりも後退しないように最善の努力をし、なおかつこのデマンド環境もまた皆さんのほうからもいろいろご意見も出ようと思いますが、もっとこのてまりんを使いやすいような方向に持っていきながら観光客の皆さんなり住民の皆さんからの利便性を図るということも今後の大きな課題かなと思って、三輪議員さんのおっしゃることは十分理解をして、私たちもそれを要望したい、お願いをしたいが、まず今の現状からしますと、なかなか厳しいというところがございますので、その厳しさを受けとめながら、なおかつ町として今申し上げますような基本的路線を確保し、なおかつ自治体として柔軟に対応しながら、できる限り観光客、町民の皆さんの利便性を図るという基本路線を進めてまいりたいというふうには思っていますので、またご理解もいただきたいと思います。

○議長（仙海直樹） 7番、三輪議員。

○7番（三輪 正） 非常に難しいことはわかるんですが、そこをやはり長年の経験者である小林町長からぜひここは頑張ってもらいたいということで、また後日何かこういうふうに頑張った結果はこうだということをぜひ報告願いたいと思います。

これで終わります。

○議長（仙海直樹） この際、しばらく休憩をいたします。議場の時計で11時5分より再開したいと思いますので、よろしく願いいたします。

（午前10時51分）

○議長（仙海直樹） それでは、休憩前に引き続き会議を開きます。

（午前11時05分）

◇ 高橋速円 議員

○議長（仙海直樹） 日程第1、一般質問を続けます。

次に、4番、高橋速円議員。

○4番（高橋速円） 質問いたします。簡潔にお尋ねいたしますので、極めて簡潔にご返事いただければと思います。

通告書においては使用料、そしてまたまち・ひと・しごと創生総合戦略について、そして3番目、原子力災害対応及び再稼働についてということを出してございますが、先ほど防災関係の話も出ておりますので、3番目の原子力災害対応に関することから質問させていただきます。通告書にもございますが、いわゆる柏崎刈羽原子力発電所にかかわる災害対応について、現在町ではいわゆるこの原子力災害対応ガイドブックという、これをもとにいろいろ質問させていただきます。傍聴の皆さん、多分これみんなあると思うんですが、こういうガイドブックのことに記載されていることなん

ですが、私は現実的ではないというふうにもう断定して事務方等々ご担当の方はある意味では心外な部分があるかもしれません。しかし、私はこれ皆さんが大変心を砕いて平成28年の5月に作成されたことは承知しているんですが、どうもこのガイドブックを読む限りはいわゆる単独の事故、原発の1基の単独事故ではないかと。ところが、現実的には今福島の第一原発ですか、あのことを見ても単独での事故というのは何らかの形の原因があるわけです。操作ミスということはないというふうに思いますが、ということは今考えられるのは同時事故あるいはテロあるいは複合災害。複合災害が一番私は気にしているんですが、そういうことでいうとこの災害ガイドブックにおいてはとりあえず出雲崎はPAZということで即時避難ということではなくて、避難準備というUPZですか、と言われている地域だという前提でこれが作成されておるんですが、もう町長の認識はどのようなことなのか。それでお伺いするんですが、今の国、県のUPZ、PAZのあれはいわゆるコンパスで5キロとか10キロとか30キロとか風向きとかもろもろのいろいろな諸条件ということを考えますと、出雲崎町は限りなくPAZという即時避難というところにもう該当するわけなんで、そういう意味においてはもう国、県にこの指定のあり方についての疑問を提出していただいて、即刻にやっぱりこの指定を変えていくべきではないか、私はそう思うんです。ただ、その前に現実的ではないというのは今さっき言いましたが、複合災害ということは道路の避難状況がどういうふうになるかというのは全く安全な道路を逃げる、約90キロ関川村へ逃げるという前提になっているんですが、これはもう渋滞とか何かを考えるとどうもおかしいと私は思うので、現実的ではないと認識するというふうに申し上げているんですが、まず基本的に町長はその辺どのように認識されていますか。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） この原子力問題につきましては、今大変大きな話題になっておるわけでございますし、県民も町民も大きな関心を持っております。なおかつこの特に柏崎刈羽原発稼働等につきましてもいろいろと論議が進められておられるわけでございますが、その中で改めてやっぱり今県も花角知事さんも3つの検証が全く完了、理解をいただけない以上は結論は出さないということになっておるわけでございますが、その中でも最も例えばこの福島の事故におけるいわゆる災害が起きたときでございますが、そのときの現状、検証が今なされつつあるわけでございますので、この高橋議員さんがおっしゃるPAZ、UPZ、この辺の範疇の問題も当然検証の中に入ってこようと思いますし、また事故が起きた場合の住民の安全な避難方法等についても今論議が進められておるわけでございますので、私は今ご意見にありましたように5キロ圏域、30キロ圏域、その中における出雲崎町は限りなく5キロ圏域に近づいておるわけでございますので、福島原発の事故の検証の範疇は当然それを超えていると私は思うんです。その検証が今なされつつあるわけでございますので、今ここで直ちに我々もそういう緊急避難に値するUPZの中に入るということとはともあれ、いわゆる3つの検証の中における最も福島原発事故における検証、これが進められるわけござい

ますので、その段階においては現実的に事故が起きたわけでございますので、そのときにおける状況はどうであったのか。そのことによって、住民の健康あるいは安全がどう確保されたのかというものがやっぱり今検証されつつございますので、その結果を見きわめつつ私たちも対応してまいらなければならない。ただし、気持ちといたしましては、議員さんのおっしゃるように限りなく5キロ圏域に近づいているのは出雲崎というものは認識しております。

○議長（仙海直樹） 4番、高橋議員。

○4番（高橋速円） わかりました。

それで、それに関連しまして、今のガイドブックの中で、とりあえずまずそういうあつてはならないんですが、事故があった場合には自宅待機ということになっていますが、問題はそこで、簡単に言うと、皆さんが自宅でじっと待ってられるかということなんです。周りは全部バスだ何だ、それも大変なバスから何からのものが動いて、その5キロ以内でも7,500台の車が移動するというふうなことも一応何かシミュレーションの中では出ているように聞いておりますが、それが目の前に、あるいはいろいろ情報で流れたときに人間はじっとしてられないと私は思うんです。あるいはまた特にそこでケアしなくちゃいけないのは、注意しなくちゃいけないのは妊婦さんとか乳幼児さんを抱える、あるいはまた要介護のいわゆる弱者の方々への対応ということをいいますと、そのスタッフから何からいうと、いわゆる大混乱になる。だから、その辺もやっぱり事前にくれぐれも注意しなくちゃいけない。28年の5月にとりあえずガイドブックのまずスタートラインを切ったんで、余計今後はこの後はその辺を、ディテールを細かくもっと充実していただきたいというふうには私は思うんですが、その辺の方向性については町長どう感じ得ますか。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） このガイドブックにございますように新潟県の広域避難指針に基づきますと、まず新潟県は関川村、もう一カ所は南魚沼市、こういうふうに指定をされております。その段階における議員さんのおっしゃるとおり、例えば5キロ圏域のUPZは避難しなさいといえ、目の前を車が通ってそれぞれ安全な場所へ避難する。我が町は、家屋内の窓を閉め切って空気が入らないようにしっかりしたところで待機しなさいといってもやっぱり不安が増大するだろうとは思いますが、結果的にはうちの町は幸い今回八手改善センター、西越改善センターは完璧に放射能から身を守る施設は完備しておりますので、例えばもし仮に今後のいわゆるいろんな計画の中において支援者なりそういう待機する人たちについては速やかにやっぱりもっと避難しやすいところに待機をしてもらうことによって、まず安全が確保される。それ以外の町民の皆さんの待機は今後の課題になってこようと思いますが、これもなかなか至難。しかし、県もこれから改めてこの災害が起きたときにおける避難体制の見直し今始めておりますので、その辺と連動しながらかつての指針とは状況もちょっと変わってまいっておりますし、住民のこの原発に対するいわゆる関心度、またさらに高まっているわけでございますので、そういう点をしっかりと見きわめながら町として住民各位のいわ

ゆる安心、安全が確保されるような最善の努力はしていかなきゃならんというふうには考えています。ただし、私は3つの検証におけるそういういろいろな課題が多くなる中における例えばこの災害起きたら避難する。もうこれはそんな事態が起きるような状況では稼働なんかできるわけないです。それはできないです。避難だって、あなた方、机上ではできるが、現実には絶対できない。きょうもきのうも出ておりましたが、バスから確保なんかできるわけないです。例えば住民誘導しなさい、あるいはあれをヨウ素剤を配れ、放射能が出ているのに、誰にヨウ素剤を配れなんて言われますか。まず、現実的には私は厳しい。だから、こんな事態が起きるような状況の中では稼働は誰もが認めないということでしょう。それに対する安全が、複合災害とおっしゃいますが、そういうものを管理、備えた中における、いかに安全が確保されるかという一つの実証がないと私は無理だと思うんです。

○議長（仙海直樹） 4番、高橋議員。

○4番（高橋速円） 要は町長も私が避難対応は現実的ではないと思うがということと言うと、町長もそうだとしたことだと私は理解いたしまして、安心するものであります。要はこの質問、今回質問した一番の骨格は、確信は、私はいわゆる安全、安心の担保というか、これをいかに行政側が町民へのいろいろな形を完備してもらえるかどうかなんです。要は今個人的にはいろいろなスマホとか何かでツイッターだのラインだのいろんな形をみんな個々にはやっています。町もそういうふうな情報でいうと、私の知っている限りでいうと、ツイッターに町の広報とかあれをいろいろと出している担当課がいろいろやっているようではありますけれども、そういうものは別なアプリのほうにもアップしていただいて、そしてどういふことがあるかもわかんないわけです。今の台風のことというならば、千葉県の特に鋸南町ですか、通信障害で、ここは高齢化率が47%というふうにならば、ちょっと聞いただけなんで、確かめてはいませんが、というところはそういう中ででも通信障害でいろいろトラブルが出ているというふうなことからいきますと、これいつどうなるかわかんないんで、これは早急にやはり行政側のほうもそういういろんな各アプリ等にアップしていただいて、行政情報をふだんから出していくというふうな形をぜひお願いしたいと思うんですが、そういうふうなことはすぐできると思うんですが、町長どうですか。すぐうんと言えればいいんです。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） これは、なかなか難しい問題だ。きょうの新聞も皆さんご覧になっていると思いますが、規制委員会が地震の断層について改めてまた検証しながら安全を確保するために、要するに行動を起こすというふうなきょう新聞記事が出ておりますが、高橋議員さんのおっしゃるようになまじっかの余談に満ちた全く裏づけのない資料提供は逆に町民に混乱を招くということがございますので、先ほど申し上げますように新潟県も、知事も3つの検証が終わらない限りは稼働は認めないということになっておりますので、それはあらゆる角度から福島原発、その課題、過酷な災害が起きたときにおけるいろいろな過程から、あるいはまた今後備えてそういう検証結果が出て

まいりますので、町としての余談に満ちた資料提供はちょっと差し控えながら、やはり基本的には県も皆さんが認めておりますところの3つの検証がどのような形で進むのか、そのいわゆる検証過程における情報は速やかに確実に町民に伝えるということが私は大事だと思ひまして、我々素人は予見に満ちた、余談に満ちた情報提供は逆に批判をいただくことになろうかと思ひますので、私たちやっぱりそういう規制委員会はもちろんです、県もしっかりと県民、住民の関心が高まっている中における簡単な、ただことではやらないと思ひますので、その辺の状況をしっかりと見守りながら、その中における町としてまた所見を申し上げるということは当然だと思ひますが、それまでの過程はやっぱり専門的な立場で検証してもらうことに対して出た結論に対してまた我々がコメントしてまいりたいというふうに考えています。

○議長（仙海直樹） 4番、高橋議員。

○4番（高橋速円） 私聞いたのは、申し上げたのは今の時点でふだんから町の広報とか何かをラインなりなんなりにもうどんどん上げてくださいねという意味です。町独自に今のこの災害なりなんのこの独自のコメントを出せと、そんなこと言っているんじゃないんです。ふだんから行政情報をどんどんアップしてやっていってくださいと、そのほうが、そうすると何かの、あつてはなりません。ならんけれども、そのことが一応あつたときにはそういうことを各皆さんがすぐ検索できるわけです。ですから、そういうふうな基盤を町のほうはぜひつくっていただきたいということです。

次の質問に入りますが、いわゆる原発の再稼働、これは3つの検証ということも町長おっしゃっていますんで、そのことについてそれ以上言葉を差し挟むことはないんです。ただ、私はこの通告書にも記してございますが、町民は極めてこの再稼働については慎重に受けとめているというふうに私は思っているんですが、受けとめているんですが、町長はこの再稼働問題、もちろんそれは前提は3つの検証等々、そういう手順があるとしても今この柏崎原発の話が持ち上がってから、つまり今からもう何十年も前ですよ、からきょうまでの間でいうと、出雲崎町民の中ではある意味ではあるときはいわゆる大変な恩恵があつた、これは確かですね。ですから、それは前提としては大変な信頼があつたわけです。ところが、その福島等々のこういう災害を目の当たりにして皆さんの感覚はかなり変わってきた。もう如実に第1次産業に従事している方何人かからも私じかに非常におかしいというふうな言い方で過去において町長がプレス関係のアンケートにコメントを出されていることについて町民のある一部の方がやっぱりおかしいぞということを言っていることを私じかに聞いているんです。特にまた女性の方々からのやっぱり意見も非常に私は極めて否定的なものが強いというふうに認識しています。その辺を町長はどのように今の町民の、手順の再稼働がいい悪いとかするとかしない、そんなこと言っているんじゃないんです。町民の認識がかなり変わってきたと私は見ているんですが、町長はその辺どのように、最近町長はあちこち町民の皆さんとかなり対話を重ねていますから、だからそういうところにおいては余計その辺のニュースは入っている

んじゃないかと思うんですが、町長どうですか。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） この再稼働等々の問題につきましては、大きく変遷をしまいであります。かつて私も議会の皆さんにお叱りをいただいたこともございますが、完全に安全確保され、あらゆる原点から検証した先においては稼働もやむを得ないかなということをお願いしながら、なおかつ稼働に必要な必須条件等々について申し述べたんですが、その後やっぱり状況は大きく変わっております。今議員さんがおっしゃるように町民の皆さんもこの原発に対する関心は一段と高まっております。そういう意味で皆さんも新聞報道見ておられるわけでございますが、昨年8月ですか、30市町村にこの再稼働についての質問がありまして、そのときにいわゆる再稼働に、これは法律じゃないんですが、再稼働に必要とするものは地元市町村と県、このお墨つきがつけば稼働可というようなことが暗黙の了解の中でそれが当然とされてきたんですが、かつてそういう時代の中で昨年のアンケートに対して明確に私は、それは過去のものであって、今現実にこの原子力関係については町民の関心は一段と高まっておるという中において、30キロ圏域における町村もその稼働に対するしっかりと意思表示をすべきだと私は申し上げた。他の町村は、これ新聞報道ですから、アバウトな発言、答えでしたが、私は明確にいかにか30キロ圏域の町村であっても首長としてやっぱり町民がいかにかそれを捉えているのか明確に答えるべきだと。ただ、そうであったから、私はそうは思わなくても協定の中で2つの市町村と知事がゴーサインを出したらそれでいいと、私はそうではないということを確認に言ったのは私です。これは、新聞報道されたんです。私はそう思っています。それは、やはり東日本大震災における原発のあの大きな事故、その後の推移、その辺における町民皆さんの関心は高まっているということになれば、首長として私は逃げてはならないと思うんです。責任を持たなきゃだめです。町民の命を預かるんです。町長として責任を持つ、これ当然でしょう。よそがそうだから、しょうがないよねと私は言わない。それは、はっきりと再稼働をもし仮に意見を問われるならば、しっかりとあらゆる面の検証なりあらゆる面の事実を重ね合わせ、究極は町民がどのようなご意見を持っているかしっかりと見きわめて私は私なりの答えを出します。

○議長（仙海直樹） 4番、高橋議員。

○4番（高橋速円） わかりました。

3番目のこの原発にかかわることで、最後これ1つ提案です。なおかつ要望も兼ねているんですが、特に事務方のほう、このガイドブック、この裏側に日ごろからの備えとあるんですけど、この中で私どうしてもこれは入れてもらいたいというのがあるんです。いざというときの持ち出し品リストに身の安全や健康を守るものということで医薬品が入っていますんで、これはいいんですが、大事なのが入れ歯、眼鏡。これある方から言われたんです、この間。なるほどなど、これは大変そうだな。これは、やっぱりぜひ申し上げるべきだなというか、提案というか、これは声を出すべきだ。入れ歯と眼鏡だそうです。これ入っていないよね、私が持っているのという。一応それだけ

申し上げて次の質問に入ります。

じゃ、今度は次に1番の使用料について質問をいたします。通告書をそのまま読みますと、公共施設について当町では長岡市など近隣市町村と広域にわたってその使用を無料とする協定を結んでいる。そのことは評価するが、いつまでも無料でよいのか懸念を抱く。私は、財政事情的にどうなっていくこと以上にこの際もう見直して何もかにも無料というのはいかがなもんかと。やはりいただくものは、だって現実には電気代から何から使っているんですから、それ相手様も当然あるんですが、相手様も、つまり長岡市だ、柏崎市だ、刈羽さんは裕福かもわかりませんが、みんな大変だと思うんです。ただ、出雲崎も金はないとは言わんけれども、大金持ちじゃないわけです。だから、そういうことにおいてはいただくものはやはりそれが何百円も取れとか、そこは言うつもりはないんですけども、やはりいただくものはいただいてよろしいのではないかと。無料というのは、私一番懸念するのは周辺にもそうですが、町民にも間違っただメッセージを出しているのではないかとこのうふうに思うんです。つまりよっぽど出雲崎は金があるというその情報です。これは、ないと言うとまた町長すぐむきになって財政調整基金はこれだけあるとおっしゃるけど、そうじゃない。金持っている、いないじゃないんです。実際施設を使っているんですから、使われているんですから、やはりこれは正当なものはちゃんと正当にいただいていいのではないかと。ただ、相手様があることですから、見直しのあれは10年単位でしたっけ、何かそういう一応の協定の見直しなりなんんりの時期が来たら、これはやっぱりきちんと申し上げるべきではないかと。何か三すくみになってみんなが言っているから、まあ、しょうがないねということじゃいけないと私は思うんですが、その辺見直しを私はすべきだと思うんですが、どうですか。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） 本来ならば答弁の前段に近隣市町村との公共施設の相互利用という問題があるんですが、端的に今議員さんからいわゆる我々町の施設の利用料を無料はいかがなもんかというご質問ございますので、私はお答えをしたいんですが、率直に問題はアリーナとトレーニングルームだと思うんです。確かにトレーニングルームにつきましては、8対2ぐらいで大体町民が8、町外が2なんです。私は、やっぱり町民の皆さんが約1万3,000人ぐらい使っているんです。仮に200円いただきますと、260万です。私は、やっぱり今これからの大きな課題は人生100年時代の健康をいかに共助するかということを考えますと、260万にはかえがたい町民の皆さんから積極的に利用していただくことによって健康を保持することは医療費なりに考えますと、全く微々たるもん。金と命は、私はかえられない。そういう意味でこういう基本的に町民の生活の根底にある健康保持のためにはお金は要らないという考え方です。それはまた私の考えですから、あと議会の皆さんからいろいろまたご意見いただいて、町民の皆さんご意見いただければ、やっぱり私は基本的にはこれはお金が要る要らないじゃないんです。本当に町民が健康で大いに利用していただくことになれば、私は、これは投資としては安いもんだし、当たり前だと思っている。ただし、町外の皆さんが約2,700人、

そうすると54万。54万は、先ほどのイベントもございしますが、54万を通したそのことは今聞くことは出雲崎行くといいですね、あれだけのトレーニング器具が備わって、あれ無料ですよという声を聞く。出雲崎ってすごいねと、こう聞くんです。そうすると、200円取って54万いただくよりも宣伝費としては大きいと。これまた議員の皆さんご批判いただきますが、私はそう考える。こういうところも皆さん物すごく喜んでいて、使った人が。そうすると、ささいな金をもらおうというよりも出雲崎を対外的に売り込むためには50万や60万でかえられない、安い宣伝費かなと、こう考えます。もう意味で私は今議員さんがトレーニングルームをおっしゃると思うんですが、あとはお金もらっていますが、これはもらっていない。そんな意味で私は基本的にはそう考えております。議員さんのご意見も今のこの新潟県も財政再建は行動計画を出しまして厳しくなっています。しかし、私はやっぱり出雲崎町の現状として聞くんです。やはり出雲崎に行くといあれだけのトレーニングルームに行っても無料で使っていていい、ありがたいねと、出雲崎はすごいねと褒められるというのは対外的にまた出雲崎を売り込む一つの安くて大きな宣伝になるかなと思っていますので、またこれからいろいろ検討もしてまいります。議会のまた皆さん方、町民の皆さんの声をしっかりと受けとめながら対応してまいりたいと思います。

○議長（仙海直樹） 4番、高橋議員。

○4番（高橋速円）そこは、見解が違うようですが、私は見直すべきであるというふうに申し上げて次の質問に入ります。

まち・ひと・しごと創生総合戦略ということに関しまして質問いたします。第2期の策定が迫っているわけですが、端的に言いまして出雲崎にずっと住み続けて、家のため、家族のため等々の事情から出雲崎で渾身の努力をされている多くの町民の皆さんへ支援をする、もっと拡充して支援をしてほしいと、すべきであるというふうに思うんです。前にも申し上げておりますが、出雲崎町まち・ひと・しごと創生総合戦略はいわゆる定住交流人口のアップということですが、どうも入ってくるというか、いらっしゃい、いらっしゃいということについて条件を並べているということが主になっていまして、ここで奮闘している、暮らしをここでされている皆さんへの支援をもっと強くアピールすべきではないかということでこの質問をするんです。もう時間ないんで、具体的に申し上げます。その新生活住まい支援ということに関する質問です。要はリフォームとかなんとかでいいと取りされては困るんです。出雲崎町で子育てをして、子育て終わったら、はい、違うところに移りますということでは困る。やはり出雲崎で奮闘されている方々にもっともっと、それはおいでになる方ももちろん手厚くするんですが、ここにいる方々にもっと手厚くしていただきたい。それで、私は次のことを申し上げたいんです。年齢制限が特に新生活スーパー住まい取得・リフォーム支援補助金というのが40歳以下あるいは中学生以下を扶養する者となっているんですが、この年齢をもっと拡充して50ないし55ぐらいまで拡充できないかな。と同時に中学生というものはもっと拡充して、拡大して高校生ぐらいまでは持っていくべきではないかなというふうに思います。こ

れが1点。

もう一つは、リフォームに力を入れまして、助成対象でない、つまり外の経費としまして、私が言いたいのは、要は各家庭なりなんなりを一番力を持っている女性の方々が出雲崎は暮らしやすい、住みやすいというイメージを持ってもらうような戦略です。戦術です。そういうことでいうと、対象外の経費の中にシステムキッチンとか、あるいはエアコンとかユニットバスが入っているんです。これは入れたほうがいいと。つまりそういうものは何だ、それだけ、あるいはそんなものまでかとかいろいろ解釈はわかります。ただ、私言いたいのは家庭のお母さん連中にターゲットを絞ってそこに応援してあげると、やっぱり出雲崎に、じゃもうちょっと住み続けようやというか、頑張ろうねというふうに私はなると思うんです。

ついでにちょっともう一つ、個人住宅と一体でない部分に関する工事ということで別棟の住宅とが独立した車庫とか等々ということもこの対象外になっているんですが、この辺も検討できないかなということで1つの提案を兼ねてこの拡充する意思はあるやなしや、この辺町長はどうお考えですか。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） 第1弾の最も基本的な問題の中における外からおいでいただく方もさることながら、ここに住む人の利便性をまず向上させる。全くそのとおりにんですが、それは十分今のお話の中においても町なりきにやっているつもりですが、基本的にはこれからの人口減少にどう備えるか。基本的な問題として私やっぱり自然動態と社会動態の2つがあります。残念ながら自然動態は年間約100人のギャップがございます。亡くなる方と生まれる方のギャップは約100人。若干強まるあるいは多くなることございますが、これはもうなかなか対応はしておるんですが、埋めがたいギャップです。これをいかに補うかという、社会動態をいかにプラスにするかということなんです。やっぱりこの町のよさを認めてお住まいいただく。ちょっとこういうところでこういう発言していいかと思いますが、先般の尼瀬のリフォームについても既にもう一つ見に来てぜひ住みたいと、しかも家族構成からいいますと、相当の人数があるんです。わかりません、まだ結論は。ぜひリフォームされたら住みたいというような申し出もあるように聞いております。私は、やっぱりそういう意味で社会動態をいかに高めながら、この自然動態のギャップを埋め、なおかつ将来的には信頼性も高めるということが基本だと思うんです。だから、これ当然この町に住む人方に対しても、しかし出雲崎町としては、きょうそれぞれ皆さんおいでになっていますが、あらゆる子育てから高齢者に対する対応等は他の町村には私は劣らないというふうに認めております。そういう上にプラスアルファ快適ないわゆる社会動態を高めることがこれがやっぱり将来の出雲崎町にとって大事だと私は思うんです。かつてはそういう状況の中で社会動態がプラスになったことがある。いわゆる転出より転入が多くなったということもあるんです、つい3年前は。やっぱりそういう意味で自然動態のギャップを埋める。なおかつ自然動態を高める。そういう意味で私は基本的にはあれを進めている

わけですから。やはり今高橋議員さんのおっしゃるようなやっぱり基本的にはここに住む人たちがこの町に満足度を高めてもらわなきゃならん。そうすることがやっぱり他に波及するというので、これ十分検討してまいりますし、今の新生活スーパー住まい、これも相当の申し込みで今数字を見まして、物すごくやっぱり利用していただいているんです。去年は36件あって3,700万町が出しているわけです。そこにおける、なおかつ今議員さんおっしゃるスーパー住まいと、あと補助金のいわゆる拡大ということを申し述べているわけですが、これにつきましてもまた現実的な問題として進めてまいりたいと思いますが、現実的にはこういう制度を取り入れている町村もこれをやめるとか縮小するという傾向が出ているんです。財政的な問題です。非常にそういう流れが出ておるんです。ただし、出雲崎町は、私は今おっしゃるようにより可能な限り財政とのはからいをしながらやっぱり検討してまいらなきゃならんと思っていますが、今ここでわかりました、年齢制限を拡大します、あるいはまた中学生を高校生までとはちょっと明言はできませんが、ご希望のご意見は十分あるということを受けとめながら検討してまいりたいと思います。

○議長（仙海直樹） 4番、高橋議員。

○4番（高橋速円） わかりました。じゃ、期待しております。

終わります。

○議長（仙海直樹） この際、しばらく休憩をいたしますが、12時を超えますので、傍聴されている皆さん方、時間になりましたら静かに退席していただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

（午前11時45分）

○議長（仙海直樹） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午前11時45分）

◇ 高 桑 佳 子 議 員

○議長（仙海直樹） 次に、9番、高桑佳子議員。

○9番（高桑佳子） 最後ですが、やらせていただきます。

まず、自主防災の進め方についてお聞きをしたいと思います。6月に津波注意報が発令された際町では避難所を開設いたしましたでしたが、避難できない方も多くおられました。また、民生委員さんがお声がけをしたけれど、これくらい大丈夫だから、避難しないと言われた要支援の方もおられたと聞いています。津波注意報の避難状況を見ていて、私はこの相反する2つの災害時避難の課題が見えたように思います。1つは、避難しようと思ってもできない方が多くいらっしゃることで、もう一つは呼びかけても自分は大丈夫だからと避難しない方がいらっしゃることで、7月の全員協議会において、町長から自主防災について各集落内で中継避難所となり得る家屋を確認し、これからは

地域で行動するということを考えていくというお話がありました。これは、6月の避難の状況を踏まえてのお考えかと思いますが、住民避難を考えますと大変有効なことですぐに進めていただきたいところです。しかし、災害などであり得ない状況に直面したときに自分は大丈夫だから、これくらいなら大丈夫だからとのみ込んでしまう心理を正常性バイアスというらしいですが、これには地域住民の方、個々の防災意識を高めていくことやわかりやすい避難方法、日ごろからの避難準備などが大切だと思います。住民同士が協力し合って災害対応していく土台としての仲間意識の醸成や防災に対する意識を高めていくための方策をどのように考えるか。あわせて今申し上げました各集落内の家屋の確認、依頼など、その計画はどのように進めていかれるのかをお聞きしたいと思えます。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） 高桑議員さんのご質問にお答えしますが、まさに私も申し上げておるわけですが、町も地域ごとに自主防災組織をつくっております。しかし、その自主防災組織の中における、私今議員さんがおっしゃるような私も注意する念頭に置いているんですが、もう徹底してやらなきゃならんと思っています。ただ、避難訓練をするとそうじゃなく、今申し上げますように、先ほどもちょっとお答えもしておるんですが、避難してくださいと言ってもなかなか避難をしない、私は大丈夫だという。その大丈夫だという前に避難するのは、遠くまで行くのはおっくうだということなんです。私は、やっぱりもうこれから地域の自主防災組織がございまして、皆さんに徹底してお願いして、その中における、集落内における安全地帯を本当に確認をしてもらいたい。確認をし合って、この場所だということになったら町もそういうものを確認し合って大丈夫かどうか、そういうものをしっかりと進めていくべきだろうと私は思うんです。要はこれから災害から住民を守るためには単なる防災無線なり、そういう声かけではだめなんです。地域の周りの人たちが声をかけ合うということ。隣の人が、あっ、お母さん、おじいちゃん、逃げましょうや、どこに、いや、あそこすぐそばにあります、そこに行きましょうと言えれば必ず避難していただくんです。絶対そうなんです。この前の災害そうでしょう。大丈夫だと思ったら水が来た。さあ困った、さあ平家で隣の家の2階上がってもらって助かった人があるんです。そういう事例からしましても私は、これは言葉じゃないんです。確実にそういう体制を整えないともういかにレベル3、先ほどの4になって避難してください、避難しない方が多いんです。近くであれば気軽に、よし、それじゃ行こうかと、私はそういうものが基本になってこないともう大変だと思うんです。だから、私は今議員さんのおっしゃるようにもう特に集落にお願いをして、もうあらゆる角度から風あるいは雨、どういうときにどこにあるんです。確実にあるんです。ただし、集会場が安全だ、そんなことはないです。絶対ない。個人の家です。あるんです。私の集落見てもあるんです。そういう方々の場所を確定しながらお互いにそう意識しながら、そういうときには、よし、受け入れましょう、皆さん来てください、お願いします。その後におけるいろんな対応については、これは町はしっかりとケアしてまい

りたいと、そういうふうには私は考えている。それないとこれからただ書いたもんどおりなんかいきません。必ず事故起きる、私はそう思う。そういう意味で最も確実に住民の安全を守る。それ身近にある。お互いが住民が近くの人で声かけ合って逃げよう、家に来なさい。おいでいただけます。そういう体制を何としても私は整えなきゃならんと私は思っています。5カ所避難所に避難してください。簡単には避難できません。現にこの前の避難してくださいと言ったら、避難場所じゃない近くの高台なり近くのお寺なりに避難された方があるんです。それでいいんです。大丈夫だ。そういう体制を現実に根づかせていかなきゃならんと思っていますので、また改めて仕切り直しの中でしっかりとやっていきたいと思えます。

○議長（仙海直樹） 9番、高桑議員。

○9番（高桑佳子） これからそういう形で進めていくというお話ですが、大体どのくらいまでにどのように。例えばこれから区長会議がありますけれども、その区長会議でもご説明いただくのか、あと仕事としてもいつぐらいまでにというめどをお聞かせいただければと思います。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） わかりました。10月5日に区長会議を用意していますので、私はそのときの挨拶の中で議員さんからもそういう発言があり、私も前々からそういう気持ちを持っていると、ぜひひとつ皆さんからこの点については前向きに考えていただきたい。行政も最大限の努力をしておるということで早急に集落内の会議を持っていただいて、そういう対応をしてもらうべき、お願いしてまいりたいと思えますので、いつというのもあれですが、できるだけ早い期間にそういう体制を、全体でなくても1つ、2つ、3つ、4つ集落ができますと、ああ、あの集落はこういうことやった、それじゃ俺らもやってみようかということになるんです。そういう意味でちょっとまた前向きにひとつ進めてまいりたいと思えます。

○議長（仙海直樹） 9番、高桑議員。

○9番（高桑佳子） ぜひそういう形で早急に、災害は本当にいつ起こるかわかりませんし、いつまでだったら安全ということもない。安全な避難の方法をできるだけ早目に固めていただきたいというふうに思っております。

もう一つ、ちょっと関連があるんですが、今回女性消防団への入団予定があるというふう聞いております。これは、1つ大きなチャンスなのではないかと捉えております。これを機に出雲崎の女性に消防の活動を知ってもらい、また防災も考えてもらい、自主防災の力となっていただくと。いざというときに頼りになる女性は出雲崎たくさんいます。臨機応変に動ける方もいます。それで、そういう意味では大変よかったなと思っているんですが、私としてはこの受け入れ態勢についての心配がございます。他の市町村では、女性消防団を立ち上げたいと考え、計画を立てて準備をし、募集をかけて女性が活躍できるフィールドや予防、広報等の中心となる内容についても丁寧に説明をし、体制を整えて活動を始めております。今回既にお二人の方が入団されることがほぼ決

まっていると聞きました。女性消防については、私も以前一般質問しましたし、他町村の女性消防の活動から当町でも検証されてきたこととは思いますが、どのような状況であるのかお聞きしたいと思います。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） 大変消防団の確保は厳しくなっているということは申し上げておるわけですが、今現在出雲崎町も団員の定数は170人ですが、その中9人ちょっと団員数、定足数を満たしておらないという現実でございます。その中で今高桑議員さんのおっしゃいましたようにこのたび2人の女性の方から入団の申し込みがありました。大変ありがたいことですが、この入団の時期を10月を予定をしていますが、現在町の消防団の幹部会議におきまして入団後の所属、活動内容、今後の女性消防団の募集の考え方等について協議しながら結論出していきたいという幹部会議、前向きな形で1つ取り組みがされておるということですので、またご理解いただきたいと思えます。

○議長（仙海直樹） 9番、高桑議員。

○9番（高桑佳子） 女性の活躍している部分をいろんな場面でニュース等で見せてもらいますと、やはり予防、広報活動などが中心あるいは高齢者宅の訪問や救急救命講習など、女性ならではの細かな配慮が必要とされる場面での活躍が期待できるのではないかと思います。

それともう一つは、今までの男性が中心の消防団の活動でありましたから、やはりその部分で女性に対する女性を消防団として受け入れていく経験がないことをこれからやっていくわけです。ですので、そういう部分ではこれからやはり入団される方々の自発的なこういうふう活動していきたい、こういうふう活躍していきたい、それを全部やっていくわけには当然いかないのだとは思いますが、どんどんそういう形で自発的に活動できる幅というものを女性消防団という形で考えていただきたいというのが1つございますし、やっぱり2名ですと、これは単独で消防とか、そういういろんな、例えば広報にいたしましても単独では行動はもちろんできいわけですし、2人入団されるとしても2人1組でいいましてもやはり少ないので、無理があると思えます。ですので、これからはもう少し、せめて5人、6人、そういう形で女性同士連携をとりながらやっていくような形をとり、それがなおかつ地域の消防の力になっていけば、これはしめたものだと思えるのですが、やはりこれからどういう形で女性にPRしていくか、女性消防団を育てていくかというお考えについてはいかがでしょうか。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） そういう意味では、百五十数名の中に2人の女性団員が入られるということはなかなか活動内容なりいろんな問題点が出ようかと思いますが、そこはやっぱり私は幹部会でも今協議されるわけですが、女性団員がいかにお二人であろうとも入団される方々の意思というか、いろんな希望等も十分お聞きしながら、受け入れながら、その中における活動を進める。そ

これにおいて、お二方が入られて消防団の活動を通して人生に対する生きがいなり社会奉仕活動なりいろいろな面で意義を感じ、それを他に伝えられることによって輪が広がると思うんです。だから、やっぱり私は単にお二人方が入ったというんじゃなくて、そのお二方が入ったことによって今団運営にも厳しい団員確保なり、あるいはまたこれから女性の皆さんからも大いにやっぱり関心を持っていただいて、また協力いただきたいという考えですので、十分お二方の入団を自主的に希望される方のご意思をしっかりと受けとめて、それなりの活動はご希望に添えられるような形で輪を広げていくことは、私は大事だと思いますので、幹部の皆さんからも当然それは受け入れてもらいたいわけですので、またお願いしてまいりたいと思います。

○議長（仙海直樹） 9番、高桑議員。

○9番（高桑佳子） ぜひこのチャンスを生かしてより充実した地域の活動につながるよう行政からもお力添えいただきたいと思います。

次の質問に移らせていただきます。この夏休み期間中なんですけど、児童クラブ、町民プールなど、子供たちの居場所で見守り側の人材確保が難しかったと聞いています。これは、ことだけではなく、このところ慢性的な人手不足だったのではないのでしょうか。児童クラブも長期休暇は朝から一日中となりますし、ことしは小学校の介助員さんがなれたところで児童クラブを支援してくださったようですが、今度は介助員さんがやってくださっていた町民プールの受け付けが特にお盆のころ大変だったようです。子育て支援員もサポートをしておりますが、町内だけでやりくりするには少し無理があるように感じております。そこでですが、隣の長岡市では小中学校の教育補助員、介助員について長期期間中は雇用が切れるというシステムになっております。夏期休暇中は、アルバイトをする方ももちろんおられます。雇用が切れるのだから、自由だと言われればそうかもしれませんが、ここのところは教育委員会で話を通していただき、人手をかりる、そういうことが可能なのではないかと思います。いかがなものでしょうか。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） 子供たちが公的な場所で安全、安心に過ごすということができるとは子供たちの健全育成につながるということで大変重要な事業というふうに認識をしております。ご質問の見守り側の人材確保ということでございますが、近隣の長岡市等との連携が考えられないか、これにつきましては児童クラブに従事する支援員やプール監視員の業務、継続的な就労が可能となるようにすることが重要であり、一定の資質が備わった人材の確保を図りながら働ける環境づくりが必要かと思っております。しかしながら、児童クラブに関して言いますが、近隣の児童クラブ、どこもやっぱり人材確保に非常に苦勞をしている現状であり、長岡市よりも地域のコミュニティセンターが実施しておりますが、市内どこの児童クラブも支援員が不足しておると。委託された推進協議会でも人探しに苦勞されておるとございまして。また、柏崎市でも福祉協議会が実施しておりますが、長岡市同様に非常に人材確保に苦勞されておると。支援員さんの皆さんの高齢化もありまして、

遠くの児童クラブに行けないという声もあるんですが、単純な人材のやりとりは受け入れないという回答がありました。また、多くの市町村が同じように課題を抱えている中で支援員の人材バンクの構築など、お互いが連携することでメリットが生まれるような連携策あれば協力したいというような回答もいただいておりますが、現状ではそのプランはないので、近隣市町村との人材の連携は非常に難しいものがあるというふうに考えています。ただし、今後も人材確保に当たりましては支援員や監視員の継続的な就労が可能となるような待遇改善等々についてもまた前向きにひとつ検討してまいりたいというふうに今思っております。

○議長（仙海直樹） 9番、高桑議員。

○9番（高桑佳子） 実際に私も長岡の教育委員会のほうの所管で教育補助員として勤めていたときに夏は切れましたので、プールの監視員をさせていただいていた、10年以上前になりますけど、あります。わんぱく水泳教室に水泳の補助として入ってこられた方も同業の方でした。そういう形で長岡の教育補助員さんあるいは介助員さんというのは夏の間いろんな形で子供たちを見るような場面で働いていらっしゃる、あるいはアルバイトをしていらっしゃる。そういうことは事実あるわけですから、それに夏休みにどうこうしてくださいというような依頼も長岡市ではないです。ですので、もしそういう話を通るとすれば、出雲崎町ではこういう方々、こういうご支援をしてくださる方を募集しておりますというような例えばチラシでも構わないと思うし、一本釣りでもいいとは思いますが、例えば三島の働いていらっしゃる方や和島の働いていらっしゃる方は出雲崎近いですから、かなり可能性としてはあるのではないかとこのように考えています。ですので、ぜひこれからは広域で考えていかないとどうしてもいろんな意味で無理が来ますし、そういうことが現実少しずつでも可能になれば、そこを手繰り寄せていろんな意味での連携がとれていくといういい連鎖が生まれてくるのではないかとこのように思います。ぜひ何か折に触れてこういうことがあると、こういう思いがあるということをお伝えいただければと思いますので、よろしく願いいたします。

〔何事か声あり〕

○議長（仙海直樹） 続けてください。

○9番（高桑佳子） では、次に行きます。

では、2番目に移りますが、子供たちの一番近くにいて接することの多い介助員さん、そして子育て支援サポーターについてです。質の向上を図るための研修等は今現在どのように行われているかお聞きしたいと思います。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） 今高桑議員さんのおっしゃるように介助員に限らず一人一人の児童生徒が適切に見取りながら、確かな資質、指導向上を目指す研修は何人の必須課題であり、これは生命線であるというふうに考えております。ほかに多様性のある子供の支援に当たる介助員のさらなる資質向

上は、これは全く不可欠でありますので、今年度の介助員の研修の実態は小中学校全職員による合同研修会が5回、その中には特別支援教育を単独に取り上げまして、専門講師を招いての研修会も実施しております。さらには介助員だけを対象とした町の教育委員会主催の研修会、先月21日に行いまして、演習、講義、そして午後からは見附市に出向きまして特別支援教育の研修に参加してまいりました。子育て支援サポーターの研修では、毎年県が実施しておりますところの子育て支援研修に1名ずつ参加しているほか、きらりの運営に協力いただいている子育て支援サポーターの皆さんの打ち合わせを兼ねた意見交換等も行っております。ことしは他町村の同様な活動をしている施設の見学等も予定をしておりますが、また児童クラブ支援とのミーティングの際は引き続き放課後児童コーディネーターとしての専門の先生をお呼びしまして、指導をいただきながら課題を解決していることで指導力の向上につなげていきたいというふうに思っています。ますます多様化あるいは複雑化します社会の中で支援を要する子供たちやお困りのいろんな問題を抱えております子供たちに対しまして、これからも研修のあり方、研修等を重ねてまいりたいというふうに考えております。

○議長（仙海直樹） 9番、高桑議員。

○9番（高桑佳子） その研修等に関しては、しっかり5回もされているということで、これは講師の方も呼ばれてやっている。でも、ちょっと1つ残念なところがあるんですけども、実は長岡市では年2回なんですけれども、教育補助員と介助員を一堂に会して講演を聞き、その後10人程度のチームで、その10人集まったら10校になるわけなんですけれども、うまくいっていることや困り事、そういうものを出し合ひまして情報交換会、これを随分長い時間とってやっておりました。介助員さんは、比較的1校が長いので、ほかのやり方を学ぶこうした機会が非常に有効だったように思います。出雲崎町は、1小学校、1中学校で他校との情報交換がほとんどない。そこが先ほど言いましたようにとても残念なところなんです、やはりほかと情報交換をするということが大変日ごろの活動の力になっていく。ですので、年5回もこういった研修をされているということでその中の1回でも構わないんですが、よそとの交流を考えていただくというふうにぜひお願いしたいと思います。いかがでしょう。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） 先ほどから申し上げておりますように出雲崎は出雲崎なりきのそれぞれの対応等を進めてまいっておるわけでございますが、やはり先ほどから申し上げますようにもうお困りの子供さんたち、いろんな皆さんに対する十分な対応をしてもらわなきゃならないわけでございますので、今やっているから、これでいいというわけじゃありません。やっぱり今議員さんのおっしゃるようあらゆる機会を活用しながら、いろんな人との交流をしながらより現実的な問題点をしっかりとお互いが把握をしながらそれに的確に対応するということが私大事だと思います。そういう意味でご意見はしっかりと受けとめながら今後のことは対応してまいりたいと思います。

○議長（仙海直樹） 9番、高桑議員。

○9番（高桑佳子） 学級担任の先生は、クラスが20人いれば、それこそ平等に20人を見なければなりませんけれども、介助員さんはもっと近いところで子供たちを見ているわけです。その一番近くにいる介助員さんたちの質の向上あるいは支援員さんたちの質の向上、これは出雲崎町の教育現場で特別な支援が必要な子供たちを力強く支えてくれると思います。出雲崎町は、特別な支援を要する子供たちの割合が多いというふうにかねてから聞いておりますけれども、これは多分幼少期から、小さいときから丁寧に見て早く対応ができていくからだと私は実は思っています。これからは、さらに質の高い支援ができる、そういう出雲崎町でなければいけないと考えますので、よろしく願いいたします。

では次に、最後になりますが、こちらのほうは安全第一の現場で見守りの目をということですけど、その目は多ければそれにこしたことはありません。町役場の採用案内がダイレクトメールで該当する年代の町内出身者に送付されています。応募する、しないは別にしても若者にはよいアピールになっていると私は思っています。この町民プールもそうです。例えばきらり、児童クラブなどもそうなんですけれども、若い方、中学生もそうでした。若い方たちが子供たちと触れ合ってくれるというのは大変ほのぼのとした温かい活気が感じられるものだというふうに思っています。ぜひ町内出身の学生を長期期間中、町ではこういったアルバイトをしているよということを協力を呼びかけてはいかがかなというふうに考えています。町内の出身者の学生を把握するのはちょっと難しいのかもしれませんが、ぜひこういう形で町民プール、児童クラブ考えてみていただけないかと思っておりますので、いかがでしょうか。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） 町民プール等の監視員、子供さん、学生さん等の登用によって、それを利用する子供さんたちの交流を図るということも大事じゃないかというご質問でございますが、まさにそのとおりではございますが、しかしやはり基本はそのプールにおいでになった方々の安全を確保するというための監視員ですから、交流は他に求めながらも監視員としてはある程度の注意力なりそれだけのやっぱり対応ができる人材確保してまいりませんと単なるアルバイトなり、そういう軽い気持ちでおいでになりますと、もし事故が起きますと大変な問題になりますので、監視員の対応はやっぱりあらゆる角度から町として対応しながら、そこにおいでになって子供さんなりあるいはいろんな皆さんが利用する方々のまず安全をいかに確保するかという人の人材確保が第一義だろうかと思いますので、高桑議員さんのおっしゃるご意見もまたそういう生徒数の中で前向きにそういう一つのご希望の方があらわれればあれですが、なかなか一過性で1年したらやめるというような方もあるわけでございますので、十分その点はまた考慮しながら、まず監視員としての素質なり住民、そこにおいでになる方々の安全を確保するというを第一義に人材確保にまた備えてまいりたいというふうに今考えています。

○議長（仙海直樹） 9番、高桑議員。

○9番（高桑佳子） そのプールの監視は、過去にも大学生が長期間ですけれども、来てくれたことは何年も前から何人もありますし、特にプールの監視をされていて思ったのはほんのちょっとしたことで危険だな、危ないなと思ったことは私も1度や2度ではありません。1回のシーズンで必ず何度も監視員が経験することです。ですので、そのところは始まる前からしっかりとそういう話し合いを中を持ちながら、こういうところをこういうふうに見ていかなければいけないとか、こういうところは絶対にこういう危険があるから、注意をしなければいけないとかということをきちんと先輩監視員から指導され、そういうことがやっぱり一人前にできていくようになっていくんだと思います。若いから、アルバイトだからということではなく、本当に監視の目も多ければ多いほうがいいと思います。交流というのは、先ほど申し上げましたけれども、それは確かに二の次だと思います。安全第一、これ当然です。絶対にやっぱり事故は起こしてはならないわけですから、その部分でも監視の手を強化していただくようにご一考いただきたいと思います。若い方たちが見えるところで活躍してくださるのは、私たちにとって、町にとっても活力につながります。ぜひこれからも若い方たちの力を町に取り入れるべくいろんな形で検討していただきたいと思います。

以上で私の一般質問終わります。

○議長（仙海直樹） これで一般質問を終わります。

◎散会の宣告

○議長（仙海直樹） 以上で本日の日程は全部終了しました。

本日はこれで散会をいたします。

（午後 零時18分）